

そばにいる
私たちの家族
幸せのかたち。

撮影協力：BESS 札幌展示場（新栄台 2-23）

特集

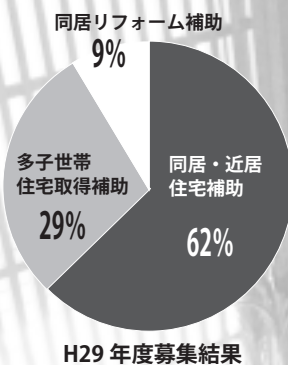
近居という選択

江別市住宅取得支援事業補助金は、多世代で支え合う家族や子育て（多子）世帯を応援するため、一定の要件を満たす世帯に住宅取得やリフォーム費用の一部を市が助成する制度です。

今年度は232世帯の応募があり、その中でも特に同居・近居住宅取得補助を申請した方が145世帯と最多でした。

今回はこの制度を利用して、市内で近居を実現した2組の家族にお話を伺いました。

[詳細](#) 建築指導課 ☎ 381-1042



01 江別地区
浦西さんご一家

こ
い
近
が
家
の
実
と
を
実
感

制度を利用した
きっかけは何ですか？

職場の同僚から補助金制度を、建築をお願いした市内業者から「フラット35」を教えてもらい利用することにしました。補助金や住宅ローンの金利低減は、家を建てようとする人にとって嬉しい制度なので、多くの人に知ってもらい利用してほしいです。

住宅取得のきっかけと
制度を利用した感想は？

子どもの成長に伴い、部屋が狭くなってきたので家を建てようと思いました。市内の建築業者に工事をお願いしましたが、対応がきめ細やかで何かと親身になってくれたの

でとても安心でした。この制度では、多子世帯や市内業者新築などの加算があり、とても助かりました。今後も継続してほしいです。

江別に住もうと思った理由は何ですか？

地元で友人も多い江別に家を建てようと思っていました。実家も近いので親も安心しますし、親の面倒も見やすいです。親が入院したときや仕事の都合で子どもの保育園のお迎えをお願いするなど、実家が近いことの大きなメリットを感じています。

また、札幌も近く便利なので、一度江別に住めば良さが分かると思います。今後子育て世帯への支援が充実すれば、若い人が増えて江別が活性化すると思います。



▲ 浦西家の内壁

新しい住まいのかたち

市内で近居を始めた家族にインタビュー

02 大麻地区
オケケさんご一家

交
流
の
機
会
が
増
え
ま
し
た

江別を選んだ理由は？

一年半前に江別に戻ってきましたが、原始林などがあり自然環境が豊かで住みやすいと思っています。家を建てるなら、実家があり土地も安い江別にと決めていました。

市の補助金と「フラット35」を知ったのは？

市の補助金制度は広報えべつやポスターを見て以前から知っていましたし、「フラット35」は、業者から教えてもらいました。いずれも住宅を建てる後押しになりました。

市内に実家がある「近居」のメリットは？

子どもが小さく、共働きの

ので子どもの面倒を両親に見てもらうことができ、とても助かっています。また、実家まで歩いて行ける距離ですので、お互いに安心です。子どもが一人で遊びに行けますし、車を運転しない母も孫に会いに来やすくなりました。一緒に食事をするなど交流の機会も増えました。



▲ オケケさんのお子様

今後、市に期待すること
は何ですか？

子育て中なので、子どもの医療助成や子育て施設がさらに充実することを期待しています。

近居という選択



江別市の補助金

同居・近居を支援する「同居・近居住宅取得補助」は、平成28年度は82件（全体の約55%）の利用が、平成29年度は、145件（全体の約62%）の応募があり、高い割合で利用されています。

高い近居のニーズ

補助金の応募者を実施したアンケート結果によると、江市に住宅を取得した理由として、親や祖父母など「家族が住んでいたから」を理由に挙げる方が約42%でした。同居・近居の内訳は、近居の利用が8割を超えており、これらの結果から、親世帯と子世帯

帯による近居のニーズが高いことがうかがえます。

また、平成26年に内閣府が行った、結婚・家族形成に関する調査によると、（出産後の住まいとして）「妻の親と近居したい」と回答した人が65.7%と、全国的に見ても、子育て世帯の近居ニーズが高いことがわかります。家族形態や働き方の変化などの社会的背景も、変化の一因となっているのかもしれませんが。

居心地のいい距離

近居によって、子育て支援やお互いの見守りが可能になり、いざという時に支え合える家族が増えます。しかし一方で、生活サイク

ルや価値観の違いによって、せっかくの利点も負担と感じてしまうという声もあります。お互いを尊重し、近すぎず、遠すぎず、居心地のいい距離を見つける必要があります。

まちづくりと近居

いろいろな世代の人が集まってくることで、まちは活性化し、発展していきます。近居は家族を思いやる心がかたちになったもの。近居によって人が集まることで、江市が思いやりとさまざまな人にあふれた、活気あるまちとなることが期待されます。

平成29年度 補助金の募集結果

【詳細】 建築指導課 ☎ 381-1042

今年度は全体で232世帯の応募がありました。

昨年5月には、道内で初めて住宅金融支援機構と協定を締結し、この制度を利用した方で要件を満たす世帯は、全期間固定金利の住宅ローン「フラット35」の借入金利の引下げ（当初5年間0.25%）の適用が可能となりました。

今年度の応募受付は終了していますが、住宅取得やリフォームを予定されている方はお問い合わせください。

確認申請
お忘れなく!

車庫やカーポート、物置などを建築する場合、住宅の建築後であっても、床面積が10㎡を超えるものは建築確認申請が必要です。（準防火地域内では10㎡以下でも必要です）。なお、コンテナを倉庫などとして利用する場合も同様です。

建築確認を受けずに建てて、法に適合しない場合、違反建築物として処分を受けたり、近隣関係トラブルの原因となったりする場合がありますので、注意しましょう。

同居・近居

住宅取得補助

最大
50万円

応募数：145世帯

※要件：親世帯と子世帯が市内で同居または近居するため住宅を取得する方

同居

リフォーム
補助

最大
40万円

応募数：20世帯

※要件：親世帯と子世帯が市内で同居のためにリフォームを行う方

多子世帯

住宅取得補助

最大
40万円

応募数：67世帯

※要件：18才未満の子どもが2人以上いる世帯で市内に住宅を取得する方